

千葉開府900年。 歴史を礎に、次世代へつなぐ 安全・安心のまち

千葉市消防局長 市村 裕二



千葉市は、東京湾の最深部に面した、自然と都市が調和する政令指定都市です。古くから県内交通の要衝として栄え、現在でも成田国際空港や東京湾アクアラインと結ばれ、都心へのアクセスに優れた「房総の玄関口」としての役割を担う一方、京葉工業地帯に属する工業都市としての側面も有しています。

本市の歩みは、1126年に千葉常重公が中央区亥鼻の地に本拠を構え、その名を冠したことに始まり、2026年は「開府900年」という大きな節目にあたります。この歴史的な節目を迎えるにあたり、「千の葉に 時を刻んで 900年」というキャッチコピーを掲げ、さまざまな記念事業を展開するとともに、先人たちの想いを受け継ぎ、「開府1000年」も見据えながら、安全・安心の礎をより強固なものにしてまいります。

また千葉市では、10年後に目指す姿を「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」と定め、その実現に向けた具体的な計画として「千葉市基本計画」を策定しています。本稿では、同計画に基づき消防局として推進している3つの方針をご紹介します。

1つ目は、「あらゆる災害に対応するための消防体制の整備」です。地域消防防災の中核を担う消防団の充実強化を図るため、更なる消防団員の増員対策や、業務管理のデジタル化を進めるとともに、職員のワークライフマネジメントを推奨することで、組織パフォーマンスの最大化を図ります。

2つ目は、「市民の安全・安心を守る消防活動体制の充実強化」です。大規模化・複雑多様化する災害にも迅速かつ的確に対応するため、消防防災ヘリコプターおよびテレビ電送システムを更新し、航空防災力と情報収集力を一層強化しました。また、年々増加する救急需要に対応するため、救急情報共有システムの効率的な活用により搬送時間の短縮を図るとともに、救急車の適正利用について市民の意識と行動に働きかける積極的な消防広報を推進します。さらに、若年層職員に対する指導技法教育を実施し、次世代の組織を支える人材を育成することで、市民サービスのさらなる向上に努めます。

3つ目は、「社会情勢等の変化に対応した火災予防対策の推進」です。少子高齢化が進む中、防火意識の普及啓発や住宅用防災機器の適切な維持管理を促進するとともに、大規模地震時の電気火災抑制に効果的な感震ブレーカーの普及に取り組みます。さらに、防火対象物への査察や危険物施設等の防災体制強化など、社会情勢の変化に対応した施策を推進してまいります。

以上の施策を総合的に進める中で、開府900年という歴史的な節目を迎える今こそ、千葉市消防局は、これまで培ってきた経験と新たな技術を融合させ、市民の安全・安心を守り続ける責務を一層強く自覚しています。災害対応力の向上、救急・予防体制の充実、そして次代を担う人材育成を着実に進めることで、「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」の実現に寄与し、市民の皆様から信頼される消防として、これからも不斷の努力を重ねてまいります。